

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ

多様な社会で学ばせてもらったこと



池田市市民生活部人権・文化国際課主幹兼国際交流センター所長 金 輝美

クレアでの勤務と生活

私がクレアに勤務したのは2008年～2010年度です。シドニー事務所赴任直後は早口の英語に苦労しましたが、現地スタッフや同僚に助けられ、とても充実した生活を送ることができ、友人関係やその経験は、今も貴重な財産になっています。

シドニー事務所では、1年目に姉妹都市交流業務、2年目は多文化共生施策をテーマにレポートを作成するため、赴任期間を通して各地の自治体を頻りに訪れました。訪問先では、説明を待つのではなく、何を知りたいのかを明確にもち、積極的に聞いていく姿勢が求められましたが、赴任前がんばったつもり語学力は自分の想定以上のものではなく、言葉の壁にストレスを感じたことを覚えています。しかし、さまざまなルーツをもつ現地の市民が、オリジナルのアクセントで英語を話しているのを聞くと、発音や文法の間違いを恐れて話さないのもったいないと考えるようになり、出張を重ねていくうちに、自然と度胸もつくようになったと思います。

生活面でも、サービス水準が日本と異なることから(帰国後、日本は何と住みやすい国だろうと改めて実感することになります)、自分の意見を粘り強く主張しなければならぬ場面もあり、語学力が鍛えられました。

ダイバーシティ

現在は日本でもさまざまな分野で「ダイバーシティ」という言葉が聞かれるようになりましたが、移民国家であるオーストラリアでは、すでに文化的多様性を活力にしようという施策が、国レベル、地方自治体レベルで進められていました。自己紹介の際には「ルーツは〇〇です」と紹介することもあり、同じオーストラリア人という意識はあっても、同時に自らのルーツを大切に、ま

た周りからも大切にされているのだと感じました。私自身が在日コリアンであることから、マイノリティがありのままで暮らせるような地域社会を、とても魅力的に感じました。



派遣元の姉妹都市であるローンセストン市では「シズンシップ・デイ」という日に、市長がオーストラリアの国籍を取得したさまざまなルーツの方へ、一人ひとりに市民証を手渡されていました。オーストラリア人になった皆さんは、出席者から祝福され、嬉しそうにしている姿が印象的でした。

現地での経験を活かす今

帰任してからは、姉妹都市交流、多文化共生施策の業務に携わっています。姉妹都市交流事業では、インターンシップで培うことのできた担当者との関係が、今も続いています。また、多文化共生施策については、外国人住民の増大が見込まれる中で地域で共生していくためのさまざまな施策が求められています。海外勤務で学ばせてもらったことを糧に、オーストラリアのように、多様であることが地域の魅力になるようなまちづくりを進めていきたいと考えています。

プロフィール

- 所属：池田市市民生活部人権・文化国際課主幹兼国際交流センター所長
- クレア時代の所属：
2008年4月～2009年3月 クレア本部企画課
2009年4月～2011年3月 クレアシドニー事務所
帰国後、現職